



大正



だより 7月号



ふちに立つ

つま先ひやり

水の青

校長
小林
崇

子どもたちの元気な声がプールから聞こえてきます。

水泳系学習は他の学習とは趣旨が異なるような感じがしますが、スモールステップで知識や技能を積み上げる点や自分のめあてに向かって計画を立て、課題解決していく点は国語や算数などの他の学習と同じです。ただ、経験による個人差が大きいことや水への恐怖心が出ること、何より夏の間にしかできないことなど水泳ならではの点もあり、子どもたちにとっては特別な緊張感と高揚感がある学習です。

水泳学習は1,2年生が「水遊び」で水中を動き回ったり、もぐったり浮いたりする心地よさを楽しみます。3,4年生は「浮く・泳ぐ運動」で水中でバランスよく浮いたり、呼吸をしながら手足を動かして長く進んだりします。そして、け伸びやバタ足などを学んで、クロールや平泳ぎの基本動作を行います。5,6年生は「水泳」です。クロールや平泳ぎで続けて長く泳いだり、距離を伸ばすことを目指したりします。

夏休みにはプールや海などで遊ぶこともあるかと思いますが、水泳の事故防止に関する心得等も学年段階に応じて指導していますが、ご家庭でも水の事故について話題にしていただけると幸いです。熱中症等、安全には十分気をつけて学習を進めます。引き続き、用具の準備や確実な健康観察の入力にご理解とご協力をお願いいたします。

令和8年度から大正小学校では次のような取組を始めました。それは、児童会朝会です。月に1回程度、子どもたちが進行を担いながら代表委員会の原案説明や各委員会、各クラスからのお知らせ等、全校児童が共有したいことをテレビ放送で伝えます。児童会朝会を始めた理由の一つに、子どもたちに様々な「表現する場」を用意したいという思いがあります。今年度は教職員の自主研修(重点研究)で子どもたちの「表現力」の向上に取り組んでいることもあり、そのための機会を増やすことを大切にしています。

6月23日の代表委員会では児童会朝会で児童が説明した「110周年のお祝いに向けて何ができるか考えよう」が議題でしたが、ここでは子どもたちの活発な議論、精一杯の表現力が発揮されていました。話し合いの結果はバースデーケーキ作り、校舎の飾りつけなどで、大正小学校がもし人間だったら大喜びしてくれそうな取組となりそうです。

本校で目指している「表現力」は、近年、アウトプットや外化などとも言われ、学習効果向上の手段として注目を浴びています。「相手に伝えようとする」ことで学んだ情報を整理したり、理解が不十分な箇所に気付いたりできてとても有効です。また、自分の表現(発表)に対して、フィードバックを受けることで異なる視点が提供され、客観的な評価を得ることで、自分の強みに気付くこともできます。何よりも「学んだことを自分の言葉で伝えられた。」「課題を解決できた。」という達成感が子どもの自信につながり、もっとやってみたいという意欲を生み出します。これからも学校でしかできないような場を創出して、子どもたちに表現する楽しさ、表現してよかったという思いを感じてもらえるといいです。

いよいよ夏休みが近づいてまいりました。暑さ対策もありますが、子どもたちには夏を楽しんでほしいです。

